

令和元年度研究集録の刊行に寄せて

岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会長
(岩手県立気仙光陵支援学校長)

小澤 千殖

新特別支援学校学習指導要領は、小学部についてはいよいよ令和2年4月1日から全面実施となります。この後令和3年4月1日より中学部、令和4年4月1日より高等部（年次進行）と順次全面実施となっていきます。各校におかれましては新学習指導要領について研修を深め、教育課程の検討も進められていることと思います。

新学習指導要領の改訂の理念として、「社会に開かれた教育課程」を実現していくことが示されておりますが、これからはより一層それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身につけられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働により実現を図っていく姿勢が求められてきます。

一方、特別支援学校には、卒業後の自立と社会参加、進路保証、特別支援学校のセンター機能による地域支援の推進など、期待される役割が増してくると共に、児童生徒の増加による教室不足や狭隘化や障がいが多様化する児童生徒への一人一人に応じた指導支援の充実等、様々な課題もあります。

私たちは更に専門性の向上を図り、特別支援教育を充実させ、自立と社会参加に向けた教育の一層の推進に向けて、より専門的な知識や技能を高めて行く必要があります。

本研究収録は47巻となり、特殊教育の時代も含め、これまで諸先輩方が積み重ねてこられた岩手の特別支援教育実践の歴史を継承していく貴重な資料ともなっています。

昨年度より、気仙光陵支援学校が、岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会の事務局を担当させていただいており今年度は2年目となりました。本会の運営にご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げますと共に、本会の事業が各校における実践や研究推進の一助となることを願い、研究集録刊行のご挨拶とさせていただきます。